



**Hewlett Packard**  
Enterprise

# SUSE Linux Enterprise Server 15 SP1 Supplement for Service Pack for ProLiant 2019.03.1 リリースノート

発行時期

2019年7月

初期バージョン

## 法律および通知情報

© Copyright 2019 Hewlett Packard Enterprise Development LP

### ドキュメント履歴:

リリース済み	説明
2019年7月	初期バージョン

# 目次

---

概要 .....	4
アップデートの推奨事項 .....	4
整合性 .....	4
変更の概要 .....	5
重要な注意 .....	5
リリースの概要 .....	5
互換性 .....	5
サポート .....	5
前提条件 .....	6
Linux上でのSUMの実行 .....	6
制限事項 .....	6
展開の手順 .....	7
コンポーネントリリースノート .....	7

## 概要

Service Pack for ProLiant (SPP)サブプリメントは、展開ツールとしてSUMを含むソフトウェアおよび/またはファームウェアコンポーネントを含めたバンドルです。SPPのコンポーネントと連動していない新しいオペレーティングシステムのアップデートまたはSPPに含まれていない機能をサポートすることが可能です。サブプリメントに含まれるソフトウェアおよびファームウェアは、通常のSPPのリリースサイクル外で必要とされる機能のサポートを提供します。サブプリメントは、必要なときにHPがドライバーのサポートを提供することができるため、カスタマーは完全なSPPが利用可能になるのを待つ必要がなくなります。

各SPPサブプリメントのバージョン番号は、対応するSPPのバージョンと一致しています。サブプリメントのリリースノートは、利用可能で、バンドル内のコンポーネントに関する情報が含まれます。サブプリメントのコンテンツがLinuxコンポーネントを含む場合、コンポーネントはLinux Software Delivery Repository (SDR)でも利用可能です。いったんリリースされたら、SPPサブプリメントのコンテンツの機能が次の利用可能なSPPIに含まれます。

SPPに関連付けられたホットフィックスは、SPPサブプリメントでも動作します。ホットフィックスが、サブプリメントでサポートされているオペレーティングシステムをサポートしているかどうかを確認する必要があります。SPPホットフィックスの詳細については、[SPP Information Libraryページ](#)にあるSPPのリリースノートを参照してください。

このサブプリメントは、SUSE Linux Enterprise Server 15 SP1 Supplement for Service Pack for ProLiant 2019.03.1で、HPE ProLiant製品にSUSE Linux Enterprise Server 15 SP1のサポートを提供します。これはSUSE Linux Enterprise Server 15 SP1専用のリリースで、SPP 2019.03.1で動作するために設計されました。

SUSE LINUX 15.1でサポートされるサーバーについて詳しくは、OSサポートサイト：<http://www.hpe.com/servers/ossupport>を参照してください。

製品名	コメント
<b>SUSE Linux Enterprise Server 15 SP1 Supplement for Service Pack for ProLiant 2019.03.1</b>	ソフトウェアコンポーネントを含むバンドル ファイル名: <b>supsp-2019.03.sles15.1.en.tar.gz</b>

## アップデートの推奨事項

オプション - ご使用のシステムが記載された修正に影響する場合、またはこのバージョンで提供される拡張機能を使用する場合、このバージョンにアップデートする必要があります。

## 整合性

Service Pack for ProLiant 2019.03.1

## 変更の概要

### 重要な注意

この文章全体で使用されているサプリメント、Service Pack for ProLiantまたはSPPの用語は、明示的に述べない限り、概要セクションの表の配布物のすべてを示しています。

- ⚠ 任意のコンポーネントをシステムにインストールする前に、インストール手順で問題が発生した場合にシステムの最新のバックアップが利用できることを確認してください。

### リリースの概要

SUSE Linux Enterprise Server 15 SP1 Supplement for Service Pack for ProLiantのリリースの概要は以下のとおりです。

SUSE Linux Enterprise Server 15 SP1のサポートを追加しました。

このサプリメントに含まれるドライバーの代わりに、SUSE Linux Enterprise Server 15 SP1ディストリビューションのドライバーを使用することも選択できます。ディストリビューションの最初のリリースのドライバーは、この時点ではHPEの追加機能のすべてが含まれていないことがあります。これらの問題は将来のリリースで解決されます。

### 互換性

このサプリメントは、SPP 2019.03.1に対応しています。

SUMおよびこのService Pack for ProLiant (SPP) のサプリメントで提供されるすべてのコンポーネントは、一緒にテストされ、Service Pack for ProLiant内の他のコンポーネントの依存関係を満たしています。

以下の製品に同梱されているソフトウェアとファームウェアコンポーネントを使用しているシステムは、簡単にこのSPPのコンポーネントに移行することができますようになります。

製品	バージョン
Service Pack for ProLiant	2019.03.1

### サポート


HPEは、各SPPバージョンを12か月間サポートします。ユーザーは、SPPの以前のバージョンが12か月のサポート期間内にある限り、以前のバージョンからこのバージョンに更新することを選択することが可能です。これにより、ユーザーが12か月のサポート期間内に中間リリースをスキップして、SPPを直接更新することができます。このSPPに移行可能な以前のSPPに含まれるコンポーネントの詳細については、互換性ページの表を参照してください。

このサブプリメントのサポート期間は、これに対応するSPP 2019.03.1のサポート期間に揃えられています。

## 前提条件

---

### Linux上でのSUMの実行

 インストール処理に失敗したときのために、ターゲットシステムにソフトウェアアップデートをインストールする前に、ターゲットシステムの最新のバックアップがとられていることを確認してください。

LinuxオペレーティングシステムのリモートターゲットシステムでSUMを正常に展開するには、以下が利用可能であることが必要です

- libcrypt.so
- libcrypt.so.1
- /usr/lib/libqldsmdm.so
- /usr/lib64/libqldsmdm-x86\_64.so
- /lib/cim/libqldsmdm.so
- /usr/lib/libemsdmdm.so
- /usr/lib64/libemsdmdm.so
- /lib/cim/libemsdmdm.so
- /usr/lib/bfahbaapi.so
- /usr/lib64/bfahbaapi.so
- /lib/cim/bfahbaapi.so
- linux-vdso.so.1
- /lib64/libcrypt.so.1
- /lib64/libpthread.so.0
- /lib64/libz.so.1
- /lib64/libdl.so.2
- /lib64/librt.so.1
- /usr/lib64/libstdc++.so.6
- /lib64/libm.so.6
- /lib64/libgcc\_s.so.1
- /lib64/libc.so.6
- /lib64/ld-linux-x86-64.so.2

## 制限事項

---

このサブプリメントおよび2019.03.1 Service Pack for ProLiant (SPP)でカスタムダウンロードを使用した場合、ハードウェアフィルターを選択すると不整合な結果が返されることがあります。また、カスタムダウンロードではHPE Broadcom tg3 Ethernetドライバー for SUSE Linux Enterprise Server 15の依存関係の失敗が報告されることがあります。このドライバーはサブプリメントの一部ではありませんが、2019.03.1 SPPに含まれています。これは今後のSPPで更新される予定です。

SLES15SP1ディストリビューションに含まれているドライバーを使用してください。このサブプリメントにはNICドライバーが含まれていないため、SLES15SP1OSを更新するためのSLES15SP1ディストリビューションに含まれているドライバーを使用してください。

## 展開の手順

---

このサブプリメントは、オペレーティングシステムのインストール後に使用するよう設計されています。これにより、ドライバーの更新と、HPEユーティリティ(ヘルスやiLOドライバーなど)およびエージェント(サーバー、NIC、およびストレージ)のインストールが可能になります。

サポートされているLinuxオペレーティングシステム上でSPPサブプリメントおよびそれに対応するSPPを使用することにより、標準のLinuxインストールツール(YUM/Zypper)またはHPE管理ツール(SUM/OneView)のいずれかを選択して以下のことを実行できます。

- サブプリメントおよびSPPで提供されたソフトウェアおよびファームウェアを使用します。
- SPPに提供されるファームウェアを使用したり、Software Delivery Repository <http://downloads.linux.hpe.com/SDR>からソフトウェアを入手したりします。
- SPPで提供されるファームウェアおよびソフトウェアユーティリティと、オペレーティングシステムのディストリビューションから入手可能なドライバーを使用します。

コンポーネントは所定の展開に応じて、SUMカスタムベースラインを使用して単一のISOに組み合わせたり、別のパッケージとして適用したりできます。

## コンポーネントリリースノート

---

SUSE Linux Enterprise Server 15 SP1 Supplement Bundle for Service Pack for ProLiant v2019.03.1用のリリースノート

[ドライバー - ストレージコントローラー](#)  
[ソフトウェア - Lights-Out管理](#)  
[ソフトウェア - システム管理](#)

### ドライバー - ストレージコントローラー

[先頭](#)

SUSE LINUX Enterprise Server 15(64-bit)用HPE Dynamic SmartアレイB140i SATA RAIDコントローラードライバー  
バージョン: 1.2.10-162 (推奨)

ファイル名: hpdsa-kmp-default-1.2.10-162.sles15sp0.x86\_64.compsig; hpdsa-kmp-default-1.2.10-162.sles15sp0.x86\_64.rpm;  
hpdsa-kmp-default-1.2.10-162.sles15sp1.x86\_64.compsig; hpdsa-kmp-default-1.2.10-162.sles15sp1.x86\_64.rpm

### 改良点

SUSE Linux Enterprise Services15 SP1のサポートを追加しました

## サポートしているデバイスおよび機能

サポートされるカーネル:

このバイナリrpmでサポートされるSUSE LINUX Enterprise Server 15 (64ビット)カーネルは、次の通りです。  
4.12.14-23 - SUSE LINUX Enterprise Server 15 (64ビット) SP0および今後のerrata。

default - SUSE LINUX Enterprise Server 15 (64-bit) SP1および今後のerrata

---

SUSE LINUX Enterprise Server 15(64-bit)用HPE ProLiant Gen10 Smartアレイコントローラー(64-bit)ドライバー

バージョン: 1.2.8-015 (推奨)

ファイル名: smartpqi-kmp-default-1.2.8-015.sles15sp0.x86\_64.compsig; smartpqi-kmp-default-1.2.8-015.sles15sp0.x86\_64.rpm;  
smartpqi-kmp-default-1.2.8-015.sles15sp1.x86\_64.compsig; smartpqi-kmp-default-1.2.8-015.sles15sp1.x86\_64.rpm

### 改良点

SUSE Linux Enterprise Services15 SP1のサポートを追加しました

## サポートしているデバイスおよび機能

このドライバーディスクでサポートされるSUSE LINUX Enterprise Server 15 (64-bit)カーネルは、次のとおりです。  
-default - SUSE LINUX Enterprise Server 15 (64-bit)および今後のerrataカーネル。

---

SUSE LINUX Enterprise Server 15(64-bit)用HPE ProLiant Smartアレイコントローラー(64-bit)ドライバー

バージョン: 3.4.20-170 (推奨)

ファイル名: hpsa-kmp-default-3.4.20-170.sles15sp0.x86\_64.compsig; hpsa-kmp-default-3.4.20-170.sles15sp0.x86\_64.rpm; hpsa-  
kmp-default-3.4.20-170.sles15sp1.x86\_64.compsig; hpsa-kmp-default-3.4.20-170.sles15sp1.x86\_64.rpm

### 改良点

SUSE Linux Enterprise Services15 SP1のサポートを追加しました

## サポートしているデバイスおよび機能

サポートされるカーネル:

このバイナリrpmでサポートされるSUSE LINUX Enterprise Server 15 (64ビット)カーネルは、次の通りです。  
4.12.14-23 - SUSE LINUX Enterprise Server 15 (64ビット) SP0および今後のerrata。

default - SUSE LINUX Enterprise Server 15 (64-bit) SP1および今後のerrata。

---

## ソフトウェア - Lights-Out管理

[先頭](#)

HP Lights-Outオンライン設定ユーティリティ for Linux (AMD64/EM64T)

バージョン: 5.4.0-0 (オプション)

ファイル名: hponcfg-5.4.0-0.x86\_64.compsig; hponcfg-5.4.0-0.x86\_64.rpm

### 前提条件

このユーティリティは、以下の最小ファームウェアリビジョンを必要とします。

- Integrated Lights-Out 3ファームウェアバージョン1.00以降
- Integrated Lights-Out 4ファームウェアバージョン1.00以降



- Integrated Lights-Out 5ファームウェアバージョン1.20以降

マネジメントインターフェイスドライバーおよびマネジメントエージェントはサーバーに必ずインストールされていなければなりません。

iLO 5の場合は、上記のパッケージに加え、openssl v1.0.x以降が必要です。  
opensslを手動でコンパイルおよびインストールしたり、意図的に/usr/bin/opensslを再配置している場合は、PATH環境変数を設定し、正しい意図したopensslにHPONCFGをダイレクトする必要があります。

#### 修正

32ビットと64ビットのopensslがインストールされている場合、HPONCFGがopensslライブラリを検出できないという問題を修正しました。

---

#### ソフトウェア - システムマネジメント

[先頭](#)

Agentless Management Service (iLO 5) for SUSE Linux Enterprise Server 15

バージョン: 1.4.1 (オプション)

ファイル名: amsd-1.4.1-1161.34.sles15.x86\_64.compsig; amsd-1.4.1-1161.34.sles15.x86\_64.rpm

#### 前提条件

- amsdは、HPE Gen10サーバー上のみでサポートされています。
- amsdは、SNMPサポートを提供しているiLO 5サービスに情報を提供します。
- iLO 5上でSNMP PASS-THRUを無効にし、SNMPがiLO 5上で構成されている必要があります。これらの設定を変更した後に、iLO 5のリセットが必要になることがあります。
- 要件:
  - 最低限必要なiLO 5ファームウェアバージョン = 1.1
  - サポートされる最小OSバージョン = SuSE Linux Enterprise Server 15

#### 修正

下記の問題を修正しました:

- SLES15 SP1のサポートを追加しました。
- NIC仮想機能が作成されるときにamsdのセグメンテーション違反が発生しなくなりました
- amsdでの不定期なセグメンテーション違反/システムハング/NMIに対処しました
- MRSAおよびStorcliのHPE SmartアレイP824i-pストレージコントローラーのサポートを追加しました
- HPE Synergy 5830C 32Gb FCホストバスアダプターのcpqFcaHostCntlrFirmwareVersionを修正しました

---

HPE ProLiant Agentless Management Service for SUSE LINUX Enterprise Server 15

バージョン: 2.9.1 (オプション)

ファイル名: hp-ams-2.9.1-842.14.sles15.x86\_64.rpm

#### 前提条件

- hp-amsは、HP ProLiant Gen8およびGen9サーバーでサポートされています。
- hp-amsは、SNMPサポートを提供しているHP iLO 4サービスに情報を提供します。
- HP iLO 4上でSNMPパススルーを無効にして、SNMPがHP iLO 4上で構成されている必要があります。HP iLO 4は、これらの設定を変更した後にリセットする必要がある場合があります。
- 要件:
  - 最低限必要なHP iLO 4ファームウェアバージョン = 1.05

- 最低限必要なOSバージョン = Red Hat Enterprise Linux 5.6、Red Hat Enterprise Linux 6.0、Red Hat Enterprise Linux 7.0、SUSE Linux Enterprise Server 10 SP4、SUSE Linux Enterprise Server 11 SP1、SUSE Linux Enterprise Server 12、SUSE Linux Enterprise Server 15

## 修正

下記の問題を修正しました:

- SLES15 SP1のサポートを追加しました。
- NIC仮想機能が作成されるときにamsHelperのセグメンテーション違反が発生しなくなりました
- amsHelperでの不定期なセグメンテーション違反/システムハング/NMIに対処しました
- MRSAおよびStorcliのHPE SmartアレイP824i-pストレージコントローラーのサポートを追加しました

---

HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) CLI for Linux 64-bit

バージョン: 3.40.3.0 (オプション)

ファイル名: ssacli-3.40-3.0.x86\_64.compsig; ssacli-3.40-3.0.x86\_64.rpm; ssacli-3.40-3.0.x86\_64.txt

### 重要な注意:

HPE SSACLIは従来と同様に、さらに追加の機能、能力、およびサポートされたデバイスを持ち、ご使用のストレージを構成して管理することができます。既存のACUCLIスクリプトは、互換性を維持するために適切なバイナリまたは実行可能ファイルを呼び出すような最小限の変更のみを加える必要があります。

### 改良点

- オンラインファームウェアアクティブ化のレポートをサポートします

---

HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) for Linux 64-bit

バージョン: 3.40.3.0 (オプション)

ファイル名: ssa-3.40-3.0.x86\_64.compsig; ssa-3.40-3.0.x86\_64.rpm; ssa-3.40-3.0.x86\_64.txt

### 重要な注意:

HPE SSAは既存のHPアレイコンフィギュレーションユーティリティ、またはACUのデザインをアップデートして、それらがオンラインになるのに応じて、様々なSmart Storageイニシアチブのために新機能と機能性を提供します。HPE Smart Array Advanced Pack 1.0および2.0の機能は、適切なファームウェア(の使用)によりHPE SSAのベースライン機能の一部となりました。

HPE SSAは従来と同様に、さらに追加の機能、能力、およびサポートされたデバイスを持ち、ご使用のストレージを構成して管理することができます。既存のACUスクリプトは、互換性を維持するために適切なバイナリまたは実行可能ファイルを呼び出すような最小限の変更のみを加える必要があります。

### 前提条件

HPE Smart Storage Administrator for Linuxは、サーバーにHPE System Management Homepageソフトウェアがインストールされている必要があります。サーバーにHPE System Management Homepageソフトウェアがインストールされていない場合、HPE Smart Storage Administrator for Linuxをインストールする前に、HPE.comからダウンロードしてインストールしてください。

**重要なアップデート:** HPE SSA (GUI) for Linuxは、HPE System Management Homepageを必要とせず、実行することができます。HPE SSAは、Linux用のローカルアプリケーションモードをサポートするようになりました。HPE System Management Homepageはサポートされていますが、HPE SSA GUIの実行には必要ありません。

起動するには、コマンドプロンプトで以下を入力してください。

```
ssa -local
```

このコマンドは新しいFirefoxブラウザーウィンドウでHP SSAを開始します。ブラウザーウィンドウを閉じると、HP SSAは自動的に終了します。これは、ループバックインタ-フェイスだけに有効であって、外部ネットワーク接続からは見えません。

#### 改良点

- オンラインファームウェアアクティブ化のレポートをサポートします

---

HPE Smart Storage Administrator Diagnostic Utility (HPE SSADU) CLI for Linux 64ビット

バージョン: 3.40.3.0 (オプション)

ファイル名: ssaduccli-3.40-3.0.x86\_64.compsig; ssaduccli-3.40-3.0.x86\_64.rpm; ssaduccli-3.40-3.0.x86\_64.txt

#### 重要な注意:

HPE Smart Storage Administratorの診断機能のこのスタンドアロンバージョンは、CLIからのみ利用できます。診断レポートのGUIバージョンは、HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA)を使用してください。

#### 改良点

- オンラインファームウェアアクティブ化のレポートをサポートします

---

HPE SNMPエージェントfor SUSE LINUX Enterprise Server 15

バージョン: 10.8.1 (a) (オプション)

ファイル名: hp-snmpp-agents-10.81-2972.1.sles15.x86\_64.rpm

#### 前提条件

hp-healthおよびhp-snmpp-agentsは、x86\_64環境では32ビットアプリケーションとして起動します。Linuxカーネル32ビット互換が有効にされていて(通常Linuxではデフォルト)、32ビット互換ライブラリが存在している必要があります。

hp-snmpp-agentsに関連するすべてのファイルの一覧を取得するには、次のように入力します:

```
rpm -qp --requires hp-snmpp-agents-<version>.rpm
```

#### 修正

以下を修正しました。

- XMLでオペレーティングシステム名にSUSE Linux Enterprise Server 15が表示されていなかったメタデータの問題に対処しました

#### 改良点

最初のリリース。

---

HPEシステムヘルスアプリケーションおよびコマンドラインユーティリティ for SUSE LINUX Enterprise Server 15

バージョン: 10.9.0 (オプション)

ファイル名: hp-health-10.90-1860.5.sles15.x86\_64.rpm

#### 前提条件

hp-healthおよびhp-smnp-agentsは、x86\_64環境では32ビットアプリケーションとして起動します。Linuxカーネル32ビット互換が有効にされていて(通常Linuxではデフォルト)、32ビット互換ライブラリが存在している必要があります。

hp-healthに関連するすべてのファイルの一覧を取得するには、次のようにタイプします。

```
rpm -qp --requires hp-health-< version >.rpm
```

#### 修正

以下を修正しました。

- hpsasmcliのループ初期値を2から0に変更しました。
- レガシーモードおよびUEFIモードでRBSUIに一致するように読み取り変数および書き込み変数をチェックするための変更
- impitool情報を正しく報告するためにhpsasmcliチェック文字列を更新しました。
- 冗長な内蔵シリアルポートおよびCOMポートを削除しました
- IMLメッセージサイズ制限が36から212バイトに変更されました
- OSセキュリティブートのhp-healthのサポート
- SET NAMEコマンドに「引用符」のサポートを追加しました
- PXEを1番目のブートとして有効に設定しました

---

HPE System Management Homepage for Linux(AMD64/EM64T)

バージョン: 7.6.5-3 (推奨)

ファイル名: hpsmh-7.6.5-3.x86\_64.rpm

#### 重要な注意:

SMH 7.6.0以降のバージョンはGen 8およびGen 9サーバーのみをサポートします。将来の全てのパッチリリースはSMH webページ上でのみ行われます。HPE SMH [リリースノート](#)を参照してください。

Linux OSのユーザー用のご注意

- パスワードファイルの編集またはその他の方法により、"hpsmh"ユーザー(インストール中に作成)にログアクセスを提供しないでください。
- "hpsmh"グループ(インストール中に作成)にユーザーを追加しないでください。

#### 前提条件

SMHソフトウェアをインストールする前に、RPMが必要なバージョンのLinuxライブラリの依存関係が存在するかどうかを確認します。依存関係が見つからない場合、欠落した依存関係のリストが提供されます。ユーザーはRPMをインストールする前に、すべての必要な依存関係を手動でインストールして、前提条件を満たす必要があります。

#### 修正

## 新しいOSのサポート

- RHEL 8
- SLES15 SP1

---

HPE System Management Homepageテンプレート for Linux

バージョン: 10.8.0 (オプション)

ファイル名: hp-smh-templates-10.8.0-1486.2.noarch.rpm

### 前提条件

すべての依存関係がインストールされていないと、**hp-smh-templates** RPMインストールが失敗します。管理者は、このコマンドを実行することにより、必要な依存関係の一覧を検証できます。yumまたはzypperにより使用されているリポジトリにこれらの依存関係が含まれている場合は、インストールツールにより自動的に取得されます。ただし、存在しない場合は、RPMのインストールに進む前に、ユーザーが主導でインストールする必要があります。

hp-smh-templatesに関連するすべてのファイルの一覧を取得するには、次のようにタイプします。

```
rpm -qp --requires hp-smh-templates-<version>.rpm
```

### 改良点:

SUSE Linux Enterprise Server 15の最初のサポート。